

2019年度 佐賀市立松梅小学校 学校評価計画にかかる学校関係者評価シート

学校の評価 (A/B/C) の妥当性を評価ください。

1 妥当である
2 ほぼ妥当である 1, 2, 3 の該当する数字に○をつけてください。
3 妥当とはいえない

1 学校教育目標		2 本年度の重点目標		＜学校の評価＞					
ふるさと松梅を担う心身共に調和のとれた子どもの育成 学校スローガン 「小さな学校 大きな未来」		①地域とともにある学校づくり ②豊かな学力の育成 ③心の教育、健康・安全教育の推進と特別支援教育の充実		A:ほぼ達成できた B:概ね達成できた C:やや不十分である D:不十分である					
3 目標・評価									
① 地域とともにある学校づくり									
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	到達度	成果と課題	具体的な改善策・向上策	妥当性	気づき(書きける範囲で結構です。簡潔にお願いします)
学校運営	〇コミュニティスクールによる学校運営		・年間6回のCS会議の充実を図る。 ・職員・保護者のCSへの理解を高める。	・CS会議に全職員が交替で参加しCSの意義や活用についての理解を深める。 ・CSについての保護者の理解を80%以上にする。	A	・8月のCS会議へ全職員で参加できた。2学期の行事への地域の関わり等が話し合われた。地域の支援を感じる機会となった。 ・CSの活動を知っている保護者もよく知っている・知っているは、100%であった。	・CSへの理解は進んでいる。今後も、学校だよりや行事の折々でCSの活動等を地道に広報し、周知80%以上を維持していきたい。	1・ 11名 2・ 0名 3・ 0名	・CSの取組は今後増々重要になると思われます。
			・「体育祭」/「文化祭」/「松梅フェスタ(柿むき大会)」/「餅つき大会」等の「授業と教育活動」への応用がけ、参加者率70%以上を目指す。	・小中合同行事では、児童生徒による実行委員会を設置し、児童生徒が自主的に活動できる場を設ける。また行事の中で児童生徒が表現力を活かし、活動できる力を育成し、保護者や地域の方への思いを大切にしたい行事にする。 ・青少年との連携を深め、青少年と職員が一体となって行事を盛り上げる。	A	・行事ごとの実行委員会の構成メンバーを委員で分担したこと、児童生徒一人一人役で仕事を果たした。児童生徒も責任を持って取り組むことができた。達成感を味わうこともできた。	・参加者は70%以上を達したが、保護者や地域の方の行事への参加の仕方については更新手続きをとれるようにする。また、主として学校行事紹介として「松梅歳時記」の掲載を徹底していく。	1・ 10名 2・ 1名 3・ 0名	・子どもたちの自主的な活動は素晴らしいと思いました。子どもたちの活躍ぶりをより多くの方に見ていただきたいことです。
			・学校からの通信やHP等を通して学校情報を細かく発信する。	・各種便りや行事に関する活動報告を発信することで、メリハリのある活動となるよう教師の意識改革を図っていく。 ・行事などの取り組み報告は、関係後速やかに更新する。	B	学校HPの見直しを行い、必要な情報発信を計画内に行うことができた。年度途中で、HPの形式変更があったが、移行期間中継り等の更新が少し滞っていた。	冬休期中間に掲載が遅れた分の各種便りを新HPに反映させ、3学期はじめには更新手続きをとれるようにする。また、年度末の教育課程編成の折に行事の精選と時期の見直しを行いたい。	1・ 7名 2・ 4名 3・ 0名	・学校、学級ごとの発行をHPからの発信のあり方について、再考が必要かもしれません。
教員	●授業改善・教職員の働き方改革の推進		・校務分掌の適正配分を行い、効率的な業務への取組を推進する。 ・教職員の外部勤務について1ヶ月あたり45時間を超えない割合を80%以内にする。	・日々「本日の運動時刻」を予告し、6時までの運動を促すとともに、業務が立て込む時期は、【残った良い日】を設定することで、メリハリのある勤務となるよう教師の意識改革を図っていく。 ・各教職員の勤務時間と把握し、50時間を超えない職員には声をかける。	A	1か月前の超過勤務45時間以内の達成率が97%、40時間以内が95%であった。当初必要だった運動時間も18時を大きく超えることとなった。また、管理職を抜いて50時間を超えることとができ、達成感を味わうこともできた。	2学期の行事が多く、職員の様子を見ていたら大変そうな時期が見受けられた。次年度の教育課程編成の折に行事の精選と時期の見直しを行いたい。	1・ 11名 2・ 0名 3・ 0名	・業務内容が減らなければ、早く帰ることも難しいですね。
			・校務等の効率化の促進						
② 豊かな学力の育成									
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	到達度	成果と課題	具体的な改善策・向上策	妥当性	気づき(書きける範囲で結構です。簡潔にお願いします)
教育活動	●学力の向上	基礎基本の定着 表現力の育成 読書の推進 家庭学習の定着	・県や市の学習状況調査において、県の平均を上回ることを目指す。 ・基礎基本を確かなに定着させる。 ・授業と教育活動において自分の考えを自ら発言できる子どもを育成する。 ・読書を推進し、年間貸出数の平均を100冊以上とする。	・全国・県の学習状況調査全職員での分析を通して、課題を共通理解し、系統的な指導ができるようにする。 ・家庭学習の仕方について、家庭学習パワーアップ週間での取組を通して、保護者にも働きかけながら基礎基本の定着を目指す。 ・授業と集食会の中で、必ず児童が感想を発表する機会を設け、60%以上の児童が発言できるようにする。 ・朝の時間や休み時間などに読書を推進し、年間100冊以上借りることを目標に取り組ませる。	B	・夏休みに、全職員で学習状況調査の分析を行い、課題に合った学習指導の工夫をしていく。夏休み明けには、学習指導の工夫や、学習目標の家庭学習時間に到達できた。 ・学校行事などで、感想交流を行う機会を設けた。たくさんの児童が発表できた。朝の時間の読書に熱心に取り組むことができた。100冊以上借りた児童も多いが、個人差が大きかった。	・毎々の習得状況の把握を記載した学習状況カルテを作成・活用し、個に合った指導に活かしていく。 ・学習指導の工夫や、大きな声で発表する経験を積ませ、意識的に指導をしていく必要がある。 ・学年相応の本、いろいろな種類の本を選び、読書に親しみやすく、委員会だけで国語の学習などを通して指導していく。	1・ 9名 2・ 2名 3・ 0名	・日頃の熱心な指導に対して、感謝いたします。引き続き指導をお願いいたします。 ・学習状況カルテは子どもにも良い取組だと思います。子ども自身も自分の成長を確認することで、主体的に学習を頑張るでして。
			・「学習の引き」を活用し、保護者評価で80%以上の児童の定着ができるようにする。 ・専門部での活動など、家庭学習や自主学習の取り組みについて検討し、全学年で統一した指導を行い、家庭学習の定着につなげる。	・「学習の引き」を活用し、保護者評価で80%以上の児童の定着ができるようにする。 ・専門部での活動など、家庭学習や自主学習の取り組みについて検討し、全学年で統一した指導を行い、家庭学習の定着につなげる。	A	・「学習の引き」を活用し、保護者評価で80%以上の児童の定着ができるようにする。 ・専門部での活動など、家庭学習や自主学習の取り組みについて検討し、全学年で統一した指導を行い、家庭学習の定着につなげる。	・「学習の引き」を活用し、保護者評価で80%以上の児童の定着ができるようにする。 ・専門部での活動など、家庭学習や自主学習の取り組みについて検討し、全学年で統一した指導を行い、家庭学習の定着につなげる。	1・ 10名 2・ 1名 3・ 0名	
			・児童生徒は9年間育てて育っているという視点で、職員会議、校内研究、生徒指導校内支援活動を小中合同で行い、職員間の連携、情報共有を図る。 ・小中合同の授業デザインに基づく授業実践をおこなう。講師を招いての研修をおこなう。また、教職員の質向上を図る。	・小中合同の授業デザインに基づく授業実践をおこなう。講師を招いての研修をおこなう。また、教職員の質向上を図る。	A	・「行事ごとの実行委員会の構成メンバー」を委員で分担したこと、児童生徒一人一人役で仕事をしたこと、その児童生徒も責任を持って取り組むこととができ、達成感を味わうこともできた。	・参加者は75%以上を達したが、保護者や地域の方の行事への参加の仕方については更新手続きをとれるようにする。また、主として学校行事紹介として「松梅歳時記」の掲載を徹底していく。	2・ 11名 2・ 0名 3・ 0名	・9年間育てる視点、小中の職員が同じ方向性をもった取組は素晴らしいと思いました。
教員	●教職員の質向上	電子黒板及びタブレットを有効活用した授業実践	・小中合同の校内研究テーマ、「小中合同の授業デザインに基づく授業実践をおこなう。講師を招いての研修をおこなう。また、教職員の質向上を図る。」	・校内研究では、小中合同の授業実践グループを組織し、事前研・研究発表・事後研で意見交換しながら系統的な指導を行うことで、一貫した教師としての授業力の向上を目指す。	A	・前・中・後期のグループごとに事前研・研究発表、事後研で意見交換しながら全職員授業を行った。発達段階ごとに児童生徒の主体性・創造性を具体例に提示し、その育成を目指す授業実践を行った。	・小中一貫校の強みを生かし、校内研究の充実を図る。さらに講師を招いての研修も行う。教職員の質向上を目指す。	1・ 10名 2・ 1名 3・ 0名	
			・授業担当の「授業中の電子黒板やタブレットの活用」を有効活用した授業実践	・情報教育推進教員やICT支援員の計画のもと、ミニ研修会を実施し、授業の効果を高める方法について検討し、全学年で統一した指導を行い、家庭学習の定着につなげる。	B	・「心のアンケート」や教育相談週間を実施することで、児童生徒の悩みや不安を把握し、適切な指導を行うことができた。	・教室の電子黒板は使用しているが、パソコンの活用が、クラスによってはまだ少ない。授業をたくさん組み立てたい。また、研修会を長期休業中に開く。ICTに関する資料を配布したりして効果的な活用を図りたい。	1・ 6名 2・ 5名 3・ 0名	
③ 心の教育、健康・安全教育の推進と特別支援教育の充実									
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	到達度	成果と課題	具体的な改善策・向上策	妥当性	気づき(書きける範囲で結構です。簡潔にお願いします)
心の教育	●心の教育	豊かな心の育成	・道徳の授業を中心に各教科や縦割り活動、いろいろな行事等を通して、あたたかな人間性、豊かな心を育てる。	・年間1回以上、ふれあい道徳を実施する。 ・年間を通して、縦割り活動をおこない、異年齢交流の充実を図る。 ・いろいろな行事を通して、地域の方々と交流の充実を図る。	A	・4月の授業参観では、全学年で、ふれあい道徳を実施することになった。縦割り活動での縦割り、ワークシート・クイズ・クイズなどを通して、異年齢交流を行った。 ・秋祭りと餅つき大会、餅つき大会等の行事で、多くの地域の方々とふれあうことができた。	・授業参観だけでなく、学級通信でも道徳の取り組みを各家庭に知らせたい。 ・各教科や学校行事と関連させた効果的な道徳の年間計画を立て、計画的に授業を行うようにしていく。	1・ 10名 2・ 1名 3・ 0名	・松梅校は年間を通して、様々な体験活動を行われているので、体験に際しては道徳を関連し、学びたいと思います。 ・子ども主体の実行委員会などで発信したり、関係する人々を交流したりする中で、相手へ寄り添うことができたと思う。
			・郷土愛をもとに自分の夢や目標にむけて努力する気持ちや高まる教育活動の推進	・地域松梅について知っている児童、自分の目標があると答える児童の30%以上にする。	B	・「心のアンケート」や教育相談週間を実施することで、児童生徒の悩みや不安を把握し、適切な指導を行うことができた。	・「心のアンケート」や教育相談週間を実施することで、児童生徒の悩みや不安を把握し、適切な指導を行うことができた。	1・ 9名 2・ 2名 3・ 0名	・「夢ノート」の取組で、未来にむかひ、希望が持てるようになる。 ・中学校のキャリア教育となつたとさらに充実していくような気がします。 ・生徒に対しては、ありがたいことではあるが、先生方の負担増が懸念される。
			・「いじめ・命を考える日」の取り組みを実施する。 ・人権教育を推進し、全職員が一丸となって取り組む。	・毎月「心のアンケート」を実施する。教育相談週間に関心のある児童生徒に呼びかけ、早期対応を図る。 ・「人権委員会」や「人権週間」「平和委員会」を計画的に実施し、互いの人権について考えさせる機会を設ける。	B	・「心のアンケート」や教育相談週間を実施することで、児童生徒の悩みや不安を把握し、適切な指導を行うことができた。	・「心のアンケート」や教育相談週間を実施することで、児童生徒の悩みや不安を把握し、適切な指導を行うことができた。	1・ 9名 2・ 2名 3・ 0名	・「夢ノート」の取組で、未来にむかひ、希望が持てるようになる。 ・中学校のキャリア教育となつたとさらに充実していくような気がします。 ・生徒に対しては、ありがたいことではあるが、先生方の負担増が懸念される。
教育活動	●いじめ問題への対応		・自他のことを意識した行動を心がける児童の育成を目指し、指導を行う。	・学校での生活のきまりを年度初めに全職員で共通理解する。 ・生活給食や具体的な例を挙げながら話し、望ましい行動がでるよう指導する。 ・各学年で月目標に対する具体的目標を設定し、取り組みの評価を各学年で行うようにする。	B	・集団下校や学校での決まりなどを職員で話し合い共通理解をしながら生徒指導を行うことができた。地域での挨拶に保護者と児童との意識の向上を図る。	・挨拶指導の際に、学校外の指導も含めて指導していく。「地域でのあいさつ」については運動会を児童会を中心に、全職員、児童会で取り組む。	1・ 9名 2・ 2名 3・ 0名	・不審者対応のことでもあるので、アクセルを踏まず、ブレーキも踏まないといふという意識が必要だと思います。
			・生徒指導の充実						
健康・体育	●健康・体育	基本的な生活習慣の定着 体力の向上	・「早ね・早起き・朝ごはんの食生活」を日々の連絡帳の項目等に起こして取り組む。 ・天候の良い日は、外遊びを奨励し、日頃から身体を動かす習慣を養う。 ・また、体育の時間運動量を確保し、体力向上を図る。	・年2回(6. 11月)、調査を行い、その結果を保護者に情報提供して指導していく。 ・「なかよしタイム(縦割り遊び)や若松タイム等遊びの時間を児童に紹介して、晴れた日以外で遊ぶ機会を100%にする。 ・体育の場で、年間を通してつくりかえを繰り返す運動に継続して取り組む。スポーツ・チャレンジに取り組むよう呼びかける。	B	・「早ね・早起き・朝ごはん」が守れているという回答は、約98%であった。 ・「スポーツ・チャレンジ」に取り組む。3年生以上と連綿して200回以上遊ぶようになるなど体力向上につなげた。 ・縦割り遊びや全校遊びを通して、ほとんどの児童が外で遊んでいるが、活動が足りない日、遊びで遊ぶ児童もいる。	・「早ね・早起き・朝ごはん」を呼びかけを継続し、生活習慣の定着を図っていく。 ・一貫した取り組みを生かし、異学年で遊んで遊ぶ遊びを推奨したり、若松タイムでスポーツ・チャレンジの項目の記録を継続させたりして異学年での運動の活性化を図る。	1・ 9名 2・ 2名 3・ 0名	
			・特別支援教育を必要とする児童に対しては、適宜、実施指導を行い、全職員で共通理解を図り、一貫した支援を行う。 ・発達障害等の障害特性についての理解を深め、一人一人の応じたかかわりができるようにする。	・個別の指導計画を作成し、支援について全職員で共通理解する。 ・特別支援教育を必要とする児童への対応についての共通理解や研修会を、小中合同で実施する。 ・職員連絡会の際には、各学年における特別支援教育を要する児童の情報交換を行うとともに、年間目標と小中合同の支援目標を明確にし、小中合同で共通したかかわりができるようにする。	A	・「早ね・早起き・朝ごはん」が守れているという回答は、約98%であった。 ・「スポーツ・チャレンジ」に取り組む。3年生以上と連綿して200回以上遊ぶようになるなど体力向上につなげた。 ・縦割り遊びや全校遊びを通して、ほとんどの児童が外で遊んでいるが、活動が足りない日、遊びで遊ぶ児童もいる。	・「早ね・早起き・朝ごはん」を呼びかけを継続し、生活習慣の定着を図っていく。 ・一貫した取り組みを生かし、異学年で遊んで遊ぶ遊びを推奨したり、若松タイムでスポーツ・チャレンジの項目の記録を継続させたりして異学年での運動の活性化を図る。	1・ 10名 2・ 1名 3・ 0名	・個別対応の充実で育った子供が集団や人とのかわりや、また、どのような育つか注目してみたいと思います。
本年度の重点目標に含められない共通評価項目									
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	到達度	成果と課題	具体的な改善策・向上策	妥当性	気づき(書きける範囲で結構です。簡潔にお願いします)
教育活動	〇幼・保・小連携		・児童理解を深め、分かりやすい指導に努め、幼小の段差を緩和する。 ・親子での育ちがスムーズにいよいよ、就学前の子どもや育ちについて、園・児童館との情報交換を密に行う。	・児童理解を深め、分かりやすい指導に努め、幼小の段差を緩和する。 ・親子での育ちがスムーズにいよいよ、就学前の子どもや育ちについて、園・児童館との情報交換を密に行う。	A	・入学前に、個々の育ちについて情報を集め、それをとらえて(生活習慣の定着)に活かしていく。学校生活に馴染んでもうかがうことができた。安心して学校生活を送ることができた。 ・年間目標や教育目標の達成を、手取り足取り、互いに学び合える行事を通して、就学前児童と交流により、相互理解を深めた。	・児童館との情報交換を、特に春先や、梅雨・夏にかけて(生活習慣の定着)に活かしていく。学校生活に馴染んでもうかがうことができた。安心して学校生活を送ることができた。 ・年間目標や教育目標の達成を、手取り足取り、互いに学び合える行事を通して、就学前児童と交流により、相互理解を深めた。	1・ 11名 2・ 1名 3・ 0名	・交流を行うメリットが生かされていると思いました。 ・年間(体育祭・夏祭り・芋煮会・芋ほり・餅つき)の行事を通して交流し、連携が深まってきたと思う。 ・担任の先生と情報交換をすることで、子どものスムーズな学校生活へつながり、先生同士のつながりも深まる。